

## 平成 17 年度社会科 1 次試験問題の講評及び解説

平成 17 年度の社会科 1 次試験問題は、過去の問題同様に「広く浅く」出題され、標準的な問題が大半であり、難問・奇問は見当たらない。傾向も 2, 3 の問題を除き従来どおりである。下記に日本地理・日本歴史・一般常識問題の特徴と新しい傾向を述べ、必要に応じて解説を加えたい。

### 日本地理

新傾向として、主要都市の緯度と経度を問う問題が出題されている。過去 6 年間続いた主要都市の降水量・気温の問題は姿を消し、代わって工業分野の主要工場に関する問題が出題されている。その他の問題は例年の傾向どおりである。

#### 1：都道府県に関する問題

緯度・経度の問題は、基準となる都市の北緯・東経を把握していれば応用できる。例として、東京は北緯 36 度で、兵庫県の明石市は東経 135 度である。

正答に必要なキーワード

- (1)三陸海岸
- (2)干拓地の大潟村
- (3)日本最大の湖
- (4)日本の標準子午線・神戸市
- (5)壱岐、対馬、五島列島

#### 2：国立公園に関する問題（頻出問題）

28 箇所の国立公園の特色に習熟していれば正答できる。

正答に必要なキーワード

- (1)修験道・那智滝
- (2)マングローブ林・シーサー・亜熱帯気候
- (3)湿原・タンチョウヅル・ラムサール条約
- (4)東照宮・華厳滝
- (5)伯耆富士・三瓶山

#### 3：日本の工業の主要工場またはコンビナートの立地を問う問題

新傾向のためやや難しい問題。対策として、主な企業の主要工場の所在地をある程度把握しておく必要がある。

## 日本歴史

従来どおりの傾向であるが、細かな問題は少なく基本問題が目立つ。教科書等の基本書を中心に学習すればほとんど正答できる標準的な出題である。

### 1：仏教宗派の開祖・僧侶に関する問題（頻出問題）

正答に必要なキーワード

- (1) 曹洞宗の開祖・只管打坐・永平寺
- (2) 真言宗の開祖・密教・金剛峯寺
- (3) 浄土真宗の開祖・悪人正機説
- (4) 浄土教の発展に尽くした人物・往生要集
- (5) 唐の学僧・5回の渡航失敗を経て日本に渡来・戒律を伝える

### 2：歴史上の都市に関する問題

正答に必要なキーワード

- (1) 日明貿易の拠点・会合衆・自治的な都市
- (2) 日米修好通商条約・外国人居留地・国際的な貿易港
- (3) 元明天皇により遷都された宮都
- (4) 織田信長が築造した城
- (5) 源頼朝が幕府を置いた地

### 3：歴史上の画家に関する問題

正答に必要なキーワード

- (1) 四季山水図巻
- (2) 生々流転
- (3) 市川蝦蔵
- (4) 紅白梅図屏風・燕子花図屏風
- (5) 唐獅子図屏風・洛中洛外図屏風

### 4：江戸時代の大名・政治機構・貨幣に関する問題

- (1) 徳川慶喜は水戸藩主の徳川斉昭の子
- (2) 一橋家の養子
- (3) 大老井伊直弼
- (4) 寺社奉行は將軍直属で譜代大名から任命され、町・勘定奉行は老中支配下で旗本から任命された。
- (5) 金貨の単位（両・分・朱）、銀貨の単位（貫・匁・分・厘・毛）、銅貨の単位（貫・文）

### 5：歴史上の戦乱に関する問題（頻出問題）

- (1) 1399年足利義満が有力守護大内義弘を挑発して討伐した乱。
- (2) 1467年將軍家の家督争いに、幕府の実権をにぎろうと細川勝元と山名宗全が介入し、戦国時代の幕開けとなった乱。
- (3) 1637年天草四郎を首領にして、キリスト教徒を弾圧したことに抵抗した土豪や百姓の一揆。
- (4) 天智天皇の死後、翌672年皇位継承をめぐっておきた天智天皇の子、大友皇子と天智天皇の弟大海人皇子の戦い。大海人皇子が勝利し、673年天武天皇として即位。
- (5) 1156年鳥羽法皇の死去により、皇位継承をめぐって対立していた崇徳上皇と鳥羽法皇の立場を引き継いでいた後白河天皇との戦乱。

### 6：近代・現代の内閣と条約等に関する問題（頻出問題）

明治期以降、主に歴代内閣の行った改革や外国との条約を問う問題。対策として、主要な戦争名とその締結条約、締結された場所、日本側の全権大使及び年代をまとめて覚えることである。

7：国際関係に関する問題

問題6同様に、通訳ガイドの役割を反映して外交問題や条約等の問題は頻出事項の一つである。

8：文学作品に関する問題

「平家物語」から「伊豆の踊子」まで幅広い時代区分から出題されている。文学史も頻出事項の一つである。

9：歴史上重要な寺社の所在地に関する問題。(頻出問題)

## 一般常識

ガイド試験の一般常識問題は、政治・経済・産業・社会・文化等の分野から幅広く出題され、時事的な問題が多く出題されている。つまり、「今、日本で、あるいは世界で何が起きているか」が問われている。一般常識問題の対策として、新聞は格好の教材になるため毎日目を通すよう心がける必要がある。これは外国人観光客が「今の日本」に関心を寄せている証拠である。

### 1：雇用情勢に関する問題

従来は大まかな統計を問う問題が多かったが、2005年度は統計に加えて語句の定義を問う問題が出題された点が新しい傾向である。失業率、労働力人口、人口に占める高齢者の割合等の経済統計は頻出事項である。労働力人口の定義から若者の無業者を表すNEET(ニート)まで幅広く出題されている。

### 2：地球環境問題に関する問題

2005年に京都議定書が発効したこともあって地球環境問題が大きく取り上げられている。世界的な問題は一般常識問題でよく取り上げられる。2004年度ではEUの加盟国拡大に関して出題された。

### 3：愛知万博や日本と外国とに関連する問題

大きなイベントがある場合には過去の開催地や次期開催地が問われる傾向にある。また、問(2)では日本とゆかりのある外国人名が問われている。このような問題は、過去においてしばしば出題されている。2004年度では、ゴッホ、モネ、イザベラ・バードらが問われた。これも外国人観光客を案内する通訳ガイドの試験にふさわしい出題であると言える。海外で襲名披露公演を行った歌舞伎役者や世界遺産が問われ、いずれも日本と外国との関連で共通点がある。

### 4：時事的色彩の濃い問題

このような時事問題は、日々新聞やテレビニュースで何度か見たり聞いたりしたものばかりである。2004年度の新札発行から話題を呼んだベストセラー等が出題されている。時事問題に対処するためには、社会で起きている様々な出来事を新聞やニュース等を通じて常に「意識する」ことが必要である。

## 終わりに

地理、歴史、一般常識の問題はほとんど基本的な知識の確認である。ガイドの実務では学習したことの一部しか使用しないかも知れないが、外国人観光客から何を訊かれても不思議ではないこの仕事の特性を考えれば、できるだけ幅広く準備するのが得策である。語学ばかりでなく、日本社会や国際社会での出来事に精通しているならば、外国人観光客を案内する際に、自信を持って案内できるばかりか、深みのある一味違った通訳ガイドになれるのではないだろうか。

多くの方々がこの通訳ガイド試験に挑み、外国人に日本を紹介する仕事に携われることを期待する次第である。

富士アカデミー代表 知念保則